

勝林寺寺報

私のお念佛

仏社会員
宮嶋千秋

「天ノナセルワザワイハ サクベクモ、ミズカラナセルワザワイハ ノガルベカラズ。」（前月号の掲示）

他人からいろいろと、あることないこと、非難や中傷を聞かされることがあります。そのなにかに聞きたくないこと、聞くに勘えないこと、腹がたつてしんぼう出来ないようなことも沢山あります。

が、これは自分が謙虚に受けとめたり、また聞き流すことをすれば難は避けることができます。すなわち、「天ノナセルワザワイハ」なんとか避けることができるものだと思います。これとは反対に、自分もいろいろとよくないことを知らず知らずのうちに悪業（あくごう）を作っていることになります。そして、その自分が作り出した悪業で、いつももさつもならない「かなしばり」になることがあります。

自分が苦しむ苦のタネは、実はたいい自分が作り自分がやしなつていてるのだと思います。いつかずつと前に、ご院家さんの仏教のお話に、「惑」・「業」・「苦」ということを聞かせてもらいました。

自分の愚かさから作り出した業によって自分が縛られていくというお話をした。その自縛自縛の、ちょうどカイコさんのように自分のはいた糸のまゆの中にじこめられている私、それが如来さまのお救いのおめあてあつたと聞かせていました。罪深いこの私のまことに思わずにはおれません。



出石組
仏婦連盟総会
盛大につとまる

六月十四日、勝林寺において組の仏婦連盟の総会が開かれました。総会行事に統いて「物故者追悼法要」が勤修。今年の物故者は三十名でした。出席会員は百九十名を超す盛況でした。午後からは兵庫教区教務所長の徳川英範先生のご講話と当寺住職の朋講座とを聞き、みのり多い一日の研修会であり研修会でした。

万般お世話くださいました坊守様、各役員そして勝林寺仏婦の方々に、あつくお礼を申します。

「これは私の財産だ」といつてみても、それがつくられるには、いろいろと数かぎりのないむずかしい条件が充たされてこそ出来たものであり、一人の力ではどうすることもできないことだったと思います。

一生を終えたときには無一物・一人ぼっちになります。

いろいろ無数の条件（ご縁）を充たされるなかで、つくられてゆく財産であり、不可思議なご縁に生かされているなかでのうるおいであることを思うとき、まず何より、ここにこうして健康でおられることが、いちばんのよろこびであります。

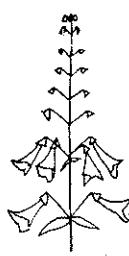
健康こそ何よりの財産でありうるおいであると想うときへ、感謝の気持ちを、いつたい何であらわしたらよいのでしょうか。

受けとさせていただきます。

私の目に見ることのできない不可思議光のご縁をいたゞき、今の健康とよろこびを与えてくださつてのことへの感謝の気持ちを、いつたい何であらわしたらよいのでしようか。

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏。

罪ふかいわたしをはぐくむ 不可思議の光 目にもいらず もつたいたなくあり。



永代經・仏教婦人会総会

七月のこよみ

一日 森戸三氏治氏宅移転法要。
清掃奉仕

二日 丹波ブロック仏婦研修会（水上正福寺）

三日 但馬ブロック仏婦研修会（勝林寺）※

四日 出石組運動推進協議会

五日 出石組仏社連盟総会並研修会 ※

六日 高福寺永代經

七日 勝林寺永代經

八日 中鶴武志氏宅法事。高福寺永代經

九日 〃。勝林寺仏教婦人会総会並研修会

十日 出石組運営同朋講座。正福寺永代經

十一日 本山運動本部第二專門部会（本山）

十二日 岩出酒一郎氏宅法事

十三日 間山フロック仏婦研修会（間山市）。十六夜至定例

十四日 播州フロック仏婦研修会（姫路市）。企画推進委員会

十五日 〔十日講〕（神戸）

十六日 「安宿」二十日まで

十七日 稲原栄氏宅上法事

十八日 出石組「ご消息伝達法要」並協議会 ※

十九日 住職坊守アメリカへ出発 ※

二十日 住職坊守アメリカへ出発 ※

二十一日 アメリカ・カリフォルニア州バークレーに

二十二日 留學中の後継住職の家族のところへ行つてまいります。住職は八月六日まで。坊守は八月十二日に帰国します。その間ご迷惑をおかけします。お許しください。

住職坊守アメリカへ

△六月二日の評議員会において出石組仏社連盟総会が開かれます。役員改選

長として勝林寺住職の亀井・孝氏が選出されました。ご活躍が期待されます。

△七月五日前九時より出石組仏社連盟総会・研修会が開かれます。役員改選

等の議事のあと記念講演を、勝林寺寺族西池匡

が心身障害者養護施設の指導員の経験からのお話をさせていただきます。会員の皆様のご参加をお願いいたします。

△仏婦と合同で七月一日午後一時から例年通り、寺の清掃奉仕をいたします。ウイークティーでお出にくくと思いますが都合のつく方はご協力くだ



今 の 私

水子の靈がたたつて、守護靈を供養しなければ；等々。だれが仕掛けたものか、今はまさに靈や靈魂のおばやり。しかもそれで以て人の弱みにつけ込んで大儲（おもむけ）をしようとする祈禱宗教・靈感商法の跳梁跋扈（ちようようばっこ）は目にあまるものがあります。

靈魂はあるのかないのか。死後ひとの魂はどうなるのか。お祇迦さまの時代にも、そのような問題が人間のあいだで話し合われたようです。また、靈魂のたたりを畏（おそ）れて、おはらいをしたり祈禱や供養をしたりする商売宗教もあります。お祇迦さまは、なぜそんな宗教を否定なさつたのですか。そんな話題を無視なさつたのですか。

お祇迦さまは、たとえでもつて仏教の立場をお示しになります。いいかね。今ここに人が矢に当つて死にそくなつていて。呼ばれて来たお医者さんが、今にも死にそうな人を前にして、「待てよ。この男の胸にささつているこの矢は、矢じりは何の石でできているのか。羽にはどんな鳥の羽が使つてあるのか。矢の竹の产地は一体何処であろうか。そしてこの矢は、どの方角からそれが射たものであろうか。それを調べそれが明らかにならなければ治療はできない」といつたところである。……とんでもないことだね。

「いま大事なことは、この人の、今のいのちがどうなるかなのだ。」「この人の生れがどこであるのか、どつちの方からやつてきたのか。また、死んだらどうなるのか、どこへ行くのか。ないのかをいま問うべきではないか。」

あるかないかさえ、だれも知らない靈や靈魂。それを金儲けに使う祈禱宗教や靈感商法のおどろき失い、「今の大事」を放り出しにして、右往左往しているその愚かさを、お祇迦さまはいさめられたのでした。それが仏教のおしえなのです。

（「勝林寺テレホン法話」より）



幾日も幾日も

釈尊の生涯

巨木の蔭では六人の修行者が真剣なおももちで話し合つております。議論は白熱し、どこまでも続き、そして夜になります。朝になると二人が托鉢（たくはつ）に出かけ、いたゞいた食物を六人で分けてたべ、また話がはじまり、あつという間に一日が過ぎてゆきます。次の日の托鉢は三人が出かけます……。

五人の修行者に教えを説いておられるのです。議論は白熱し、どこまでも続き、そして夜になります。

七月三日（金）九時半受付
研修テーマ
「生きるよろこび」「み教に学び語ろう」
「初参式のこと」

母は、また話を続けました。
「このおばあちゃんは厳しい気性の人だつた。それでも、何でも何でもと二人の孫を育てるために、夜中いつしよに寝ている私（母）をおこし」「清子、目を覚して聞いておくれ」と、これから家のこと、私の身になつて、あれこれ何くれと話して聞かせてくださつた。いわば父親がわりのおばあちゃんだつたのです。」と教えてくれたことでした。

おばあちゃんが亡くなつた後も、母は折にふれておばあちゃんの偉かつたことを度々私に話してくれたものです。

おばあちゃんが亡くなつた後も、母は折にふれておばあちゃんの偉かつたことを度々私に話してくれたものです。

して聞かせてくれたものです。

「お尋ねしました。『あるものは必ず滅す。またどんなに大切な人でも、好きな人も、親子であつても、出会つた者は必ず別なければならない定（さだ）めがあるのです。』

「このおばあちゃんと私との出会いは、私が三歳のとき、この家にもらわされてきた時からのことです。」

「私はお答えになりました。『失せ物を見つけ出すのと、自分自身を見いだすのと、どちらが大切だろうか』

人々は釈尊のこのことばの深い意味に胸をうたれ、みんなそろつてみ教えに耳をかたむける身となつたということです。

静かに座つておられるお祇迦さまのお姿を見かけ

てお尋ねしました。『あやしい女を知りませんか』

釈尊はお答えになりました。『失せ物を見つけ出

ます。』

私は、この母からいたゞいたことばを、生がい

し生活がはじまりました。母は一人身での子育

てに苦勞を重ねつら日々が多かつた中で、信仰

心をもち若いころから出石の町の寺々へお参りし

お説教をいたゞいてくることを楽しみにしていた

うことばも、お説教のなかでいたゞいたことばを

子育ての場でわが子にも教えてくれたのだと思

います。

私は、この母からいたゞいたことばを、日々の子育

の教訓として、教師になつてからも、日々の子育

もたちとのあいのなかに、常に心にとどめて教

育実践させていたゞきましたことは、おばあちゃんの死を通して教えてもらつたあの時の母のことばが、いまだに私に生きているのだと、感謝申

しているのを思ひ出します。

そんなある時、母は私を呼び、しみじみと話

たことを思い出します。

その間、母はずつと側で寝ないで看病してい

ます。

わが家のために、家族のためにと働き続けて

くれていたおばあちゃんが、にわかに頭痛を訴

えて倒れ、一週間といわゆる悪寒で亡くなつてしまつたのでござります。

當時七十八歳でございました。

アセサリーを、遊女はそつくりぬすんで逃げてしましました。

さあ大変です。盗難に気づいた若い男女は、逃げた遊女を懸命にさがしました。そしてある樹の下に

佛教婦人会但馬地区研修会 勝林寺開催

講師 谷川弘明
弘顕師
他教区企画推進室員
参考費 八〇〇円



本日までに二百六十名の参加申込がありました。

お世話を受持つ仏婦役員の方々、大変ですがよろしくお願ひします。

生者必滅 会者定離
わたしの生い立ち
「おばあちゃんとの別れ」

仏婦会員 宮嶋幸子

わが家のため、家族のためにと働き続けてくれていたおばあちゃんが、にわかに頭痛を訴えて倒れ、一週間といわゆる悪寒で亡くなつてしまつたのでござります。

その間、母はずつと側で寝ないで看病してい

ます。

その間、母はずつと側で寝ないで看病してい

ます。

三十人の青年とその妻や恋人の女性二十九人とが森の中で遊びたわむれておりました。ところが二十九人のうち一人は悪い遊女でした。みなが遊び興じていて、そこらあたりに脱ぎちらしてあつたアセサリーを、遊女はそつくりぬすんで逃げてしましました。

さあ大変です。盗難に気づいた若い男女は、逃げた遊女を懸命にさがしました。そしてある樹の下に

あります。

忘れ物